

校長室だより

No. 10

平成28年6月10日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず
加藤嘉一

小さな巨人

今週の昼休みに子供たちの外遊びを見ながら、ふと植木の草が伸びていることに気がつき、草取りをしていました。すると、ある子が「〇〇先生は？」と何度もわたしに聞きます。どうも〇〇先生を待っているようです。なかなかその先生が見当たらないので、時間つぶしに私と一緒に草取りをしてきました。そのときのわたしとの会話。



Aさん「〇〇先生、まだこないかなあ」

わたし「どうしたの。」

Aさん「だって今日サッカーやるって〇〇先生と約束したもん」

わたし「そっかー、〇〇先生サッカー上手だもんね。サッカー部じゃなかったかな。」

Aさん「うん、そうだよ。知ってるよ。あと今年中に〇〇先生を抜かしたい。」

わたし「抜かすって？」

Aさん「短距離で〇〇先生を抜かす。」

わたし「へえ、〇〇先生、陸上部にも入っていたから足も速いよ。」

Aさん「うん、知ってるよ。(にこにこした顔で)でも抜かす。」

Aさんはやる気満々の顔を見せながら話してくれました。Aさんにとっては、〇〇先生がとても親しみのある人になっているのだなと感じました。そして、〇〇先生を負かしてやろうと企みながら、競争すること自体を楽しみにする子供らしい心が見えてきます。先生と一緒に走って走る・勉強するとは、こういう子供の姿が生まれることだと思います。またまた若い先生の魅力をうらやましく思う瞬間でした。

そのまま草取りを続けていましたが、残念ながら〇〇先生は別の子のことで急な用事ができて、外へ来られなくなったようでした。それがわからないAさんは、結局放課中わたしと草取りをしていることに。「今日は校長先生のお手伝いをしてくれたから自慢ができるね。」と何気なく言うと、「こんなん、言わない。たいしたことじゃないもん、自慢にならん。」と言われてしまいました。

そして、放課終了の音楽が鳴りました。Aさんは、〇〇先生とサッカーをする希望がかないませんでした。でも音楽が鳴ると、「あ、音楽だ。校長先生バイバイ。」と言って、不服そうな顔一つ見せず、次のチャンスをねらう表情を見せ、走って教室に帰って行きました。わたしは、こんなとき「先生なんで来ない？」と言いながら、きっと不満げに帰る子もいるだろうと想像しました。走る姿を

見ながら、不満げに帰る子と少しも不満げな様子を見せずに帰っていくこの子との違いは何から生まれるのだろうか、少しの間考えていました。答えは出ませんでした。

プール開き

8日(水)すばらしい天気になり、プール開きを行いました。安全を祈り、その後はわたしの話、水泳部による模範演技、体育主任の大西先生から注意の確認です。そこでうれしかったことは水泳部の活躍です。ビート板を使ったキックから、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライと、水泳部全員がどれかの役割をもち、全種目を見せてくれました。まだシーズンが始まって大した日数を泳いでいませんが、昨年4・5年生だったころに見た彼らの泳ぎとはぐんと違い、成長していてびっくりしました。顧問の先生方の指導もありがたいなあとと思うことと、続けるということは大きな意味を持つことだと改めて思いました。



「ちゅらぼ」に感謝

プール開きもあり、どの学年も水泳指導が始まりました。それに合わせて、プール監視補助ボランティアの方々も来てくださり、大助かりです。すでに、これまで1年生のさつまいものつる挿しをお手伝いしてもらったボランティアや5年生の裁縫補助ボランティアに御参加いただきました。さつまいものつる挿しでは、大人の手があるので、効率よく子供たちにつるを植えさせることができましたし、子供が植えた後の整備もとてもスムーズに行えました。



家庭科の裁縫では、針を使う手元の作業になるので、全員で先生の手本を見るのはとても見にくいものです。こうしたとき、保護者の方々は何箇所かで手本を見せてくれる効果は抜群。また、一人一人がやり始めるとこの縫い方やとめ方でよいか不安になって、よく「先生、これでいいの?」と聞く子の山になります。こんな時も大人が3人いるのですぐ聞けて子供は安心します。ボランティアのみなさんも心得たもので、縫うことすべては手伝わず、担任がどこまで助けるかを見て、同じように接してくれています。

教育効果は絶大です。わたしたちも助かりますし、何よりも子供の学習効果につながっていることがわかり、うれしくなりました。本当に感謝です。